

各関係機関の長 殿

福岡県病虫害防除所長

平成16年度病虫害発生予報第1号について

このことについて、以下のとおり送付します。

平成16年度病虫害発生予報第1号(4月)

【普通作物】

作物名	病虫害名	発生現況 (平年比)	発生予想 (平年比)
麦類	赤かび病	-	並

【普通作物 - 麦類】

1 麦類の赤かび病

(1) 予報の内容

発生量：平年並

(2) 予報の根拠

4月の気象予報では、平均気温及び降水量は平年並と予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 穂が病原菌に感染しやすい時期は開花期である。防除適期は小麦は出穂後7～10日頃の開花期、大麦は出穂後1～4日頃の穂揃い期である。防除適期を過ぎると防除効果が低下するので、生育状況に留意し、防除適期を失しないように注意する。この時期に降雨や曇天が続く場合は、1週間後にもう一度防除を行う。

イ 農業総合試験場の作況調査(小麦：11月19～21日、大麦：11月25日播種)によると、今後気温が平年並で経過した場合、出穂期は大麦・小麦とも平年より1～5日早く、ニシノチカラは4月3日頃、アサカゴールドは4月6日頃、シロガネコムギは4月8日頃、チクゴイズミは4月10日頃と予想されている。

ウ 防除薬剤は「平成16年度普通作物病虫害・雑草防除の手引き」を参照する。

エ 降雨の合間に薬剤防除を行う場合、液剤は散布後一旦乾けば降雨があっても薬剤の効果はある。しかし、粉剤の場合は、散布後6時間以内に降雨があった場合は、かけ直し防除を行わないと薬剤の効果落ちる。

【果 樹】

作物名	病虫害名	発生現況 (平年比)	発生予想 (平年比)
カンキツ	そうか病 ミカンハダニ	やや少ない やや多い	やや少ない やや多い
ナシ	黒星病	-	並
ブドウ	黒とう病	-	並
カキ	フジコナカイガラムシ	-	並

発生現況及び発生予想の平年値は、前年までの9か年の平均値とした。

【果 樹】

1 カンキツのそうか病

(1) 予報の内容

発生量：平年よりやや少なく、前年並

(2) 予報の根拠

ア 3月5半旬調査の結果、旧葉の発病葉率は0.1%（平年：0.7%、前年：0.2%）であった。

イ 4月の気象予報では平均気温及び降水量は平年並と予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 発芽直後～展葉期の薬剤防除を徹底し、初期発病を抑える。

イ 罹病葉は伝染源になるので除去する。

ウ 防除薬剤は「平成16年度果樹病虫害・雑草防除の手引き」を参照する（以下の病虫害についても同様）。

2 カンキツのミカンハダニ

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年よりやや多い

(2) 予報の根拠

ア 3月5半旬調査の結果、寄生葉率は16.5%（平年：3.8%、前年：2.9%）、発生ほ場率は47.1%（平年：31.7%、前年：36.8%）であった。

イ 4月の気象予報では平均気温及び降水量は平年並と予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 薬剤防除に当たっては、薬液が葉裏に十分かかるよう丁寧に散布する。

イ 薬剤感受性低下を避けるため、同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。

3 ナシの黒星病

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年並

(2) 予報の根拠

ア 前年の8月2半旬調査の結果、発病葉率は0.4%（平年：0.7%、前年：0.2%）、発生ほ場率は25.0%（平年：28.3%、

前年：25.0%）で、越冬菌量は平年並と予想される。

イ 4月の気象予報では平均気温及び降水量は平年並と予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

薬剤感受性低下を避けるため、同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。

4 ブドウの黒とう病

(1) 予報の内容

発生量：平年並、前年よりやや多い

(2) 予報の根拠

ア 前年の8月5半旬調査の結果、発病葉率は1.4%（平年：3.2%、前年：0.2%）、発生ほ場率は46.2%（平年：52.1%、前年：7.1%）で、越冬菌量は平年並と予想される。

イ 4月の気象予報では平均気温及び降水量は平年並と予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 頂芽の展葉2～3枚期の薬剤防除を徹底し、初期発病を抑える。

イ 罹病枝や前年取り残した巻きひげは除去する。

4 カキのフジコナカイガラムシ

(1) 予報の内容

発生量：平年並、前年よりやや少ない

(2) 予報の根拠

ア 前年の収穫期の寄生果率は、17.2%（平年：14.8%、前年：38.8%）で、越冬量は平年並と予想される。

イ 4月の気象予報では平均気温及び降水量は平年並と予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 越冬幼虫が移動を始める前に枝の分岐や付け根等の削り残しが無いよう粗皮剥ぎを行い、本虫を発見した場合は粗皮ごと園外に持ち出すか、圧殺する。

イ 越冬幼虫が新梢に移動する4月下旬～5月上旬に薬剤防除を徹底する。

【茶】

作物名	病虫害名	発生現況 (平年比)	発生予想 (平年比)
茶	カンザワハダニ	やや多い	やや多い

【茶】

1 カンザワハダニ

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年よりやや多い

(2) 予報の根拠

ア 3月5半旬調査の結果、寄生葉率は3.5%（平年：2.2%、前年：3.2%）で、50葉当たり寄生虫数は平均4.2頭（平年：3.1頭、前年：2.6頭）であった。また、発生ほ場率は53.8%と高い。

イ 気象予報では、4月の平均気温及び降水量は平年並と予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 発生状況をよく観察し、発生の少ない茶園は一番茶の新芽生育期の防除は控える。発生の多い茶園は、農薬使用基準を遵守し早めの防除を行う。

イ 霜害発生後には多発しやすいので、早めの防除を行う。

ウ 薬剤感受性低下を避けるため、同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。

【野 菜】

作物名	病虫害名	発生現況 (平年比)	発生予想 (平年比)
冬春トマト	灰色かび病 菌核病 葉かび病	やや少ない 並 多い	並 並 多い
冬春ナス	すすかび病 うどんこ病 灰色かび病	並 並 やや少ない	並 並 並
冬春キュウリ	べと病 うどんこ病 褐斑病 ミナミキイロアザミウマ	並 並 多い 多い	やや多い 並 多い 多い
イチゴ	うどんこ病 灰色かび病 ハダニ	並 並 多い	並 並 多い
野菜共通	コナジラミ類	やや少ない	やや少ない

【野 菜】

1 トマトの灰色かび病

(1) 予報の内容

発生量：平年並、前年よりやや少ない

(2) 予報の根拠

ア 3月5半旬調査の結果、発病果率は0.1%（平年：0.7%、前年：1.3%）であった。

イ 4月の気象予報では、平均気温及び降水量は平年並と予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 하우스内の換気を行い、多湿にならないよう管理する。

イ 被害果や被害茎葉、不用な花弁は早めに除去する。

ウ 薬剤感受性低下を避けるため、同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。

2 トマトの葉かび病

(1) 予報の内容

発生量：平年より多く、前年よりやや多い

(2) 予想の根拠

ア 3月5半旬調査の結果、発病葉率は11.5%（平年：4.2%、前年：7.8%）であった。

イ 4月の気象予報では、平均気温及び降水量は平年並と予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 하우스内の換気を行い、多湿にならないよう管理する。

イ 草勢が低下すると発病が助長されるので、適正な肥培管理を行う。

ウ 病勢が進展すると防除が困難となるので、発病初期の防除を徹底する。

- エ 発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。
オ 薬剤感受性低下を避けるため、同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。

3 ナスのすすかび病

- (1) 予報の内容
発生量：平年・前年並
- (2) 予報の根拠
ア 3月5半旬調査の結果、発病葉率は25.0%（平年：30.8%、前年：28.5%）であった。
イ 4月の気象予報では、平均気温及び降水量は平年並と予想されている。
- (3) 防除上注意すべき事項
ア 하우스内の換気を行い、多湿にならないよう管理する。
イ 草勢が低下すると発病が助長されるので、適切な肥培管理を行う。
ウ 病勢が進展すると防除が困難となるので、発病初期の防除を徹底する。
エ 発病葉はできるだけ除去し、ほ場外に持ち出し処分する。
オ 本病の分生胞子は、曇天・雨天時に形成され、晴天時に飛散するので曇天・雨天後の晴天日に薬剤散布すると効果が高い。
カ 薬剤感受性低下を避けるため、同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。

4 キュウリのべと病

- (1) 予報の内容
発生量：平年よりやや多く、前年並
- (2) 予報の根拠
ア 3月5半旬調査の結果、発病葉率は14.8%（平年：12.6%、前年：14.1%）で、一部のほ場では多発している。
イ 4月の気象予報では、平均気温及び降水量は平年並と予想されている。
- (3) 防除上注意すべき事項
ア 草勢が低下すると発病が助長されるので、適切な肥培管理を行う。
イ ハウス内の換気を行い、多湿にならないよう管理する。
ウ 薬剤感受性低下を避けるため、同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。

5 キュウリの褐斑病

- (1) 予報の内容
発生量：平年・前年より多い
- (2) 予想の根拠
ア 3月5半旬調査の結果、発病葉率は13.6%（平年：1.7%、前年：9.3%）であった。
イ 4月の気象予報では、平均気温及び降水量は平年並と予想されている。
- (3) 防除上注意すべき事項
ア ハウス内の換気を行い、多湿にならないよう管理する。
イ 草勢が低下すると発病が助長されるので、適正な肥培管理を行う。
ウ 病勢が進展すると防除が困難となるので、発病初期の防除を徹底する。
エ 発病葉はできるだけ除去し、ほ場外の持ち出し処分する。
オ 薬剤感受性低下を避けるため、同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。

6 キュウリのミナミキイロアザミウマ

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年より多い

(2) 予想の根拠

ア 3月5半旬調査の結果、発病葉率は17.2%（平年：4.4%、前年：4.9%）であった。

イ 4月の気象予報では、平均気温及び降水量は平年並と予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 多発生後は防除が困難となるので、早期発見、早期防除に努める。

イ キュウリ以外の植物にも寄生するので、ほ場内の雑草は除草する。

ウ 薬剤感受性低下を避けるため、同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。

7 イチゴのハダニ類（平成16年2月3日発表の注意報第3号参照）

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年より多い

(2) 予想の根拠

ア 3月5半旬調査の結果、寄生株率は18.3%（平年：4.8%、前年：4.0%）であった。

イ 4月の気象予報では、平均気温及び降水量は平年並と予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 多発生後は防除が困難となるので、早期発見、早期防除に努める。

イ イチゴ以外の植物にも寄生するので、ほ場内の雑草は除草する。

ウ 寄生株から、かぎ取った下葉や除草した雑草は、速やかにビニル袋等に入れて密閉し処分する。

エ 薬剤感受性低下を避けるため、同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。

4月の気象予報（1か月）

（予報期間3月27日～4月26日）

2004年 3月26日

福岡管区気象台発表

【概要】

向こう1か月の平均気温は平年並、降水量は平年並、日照時間は平年並の可能性が大きいでしょう。

九州北部地方では、天気は数日の周期で変わるでしょう。寒暖の変動が大きいでしょう。

【要素別確率】

（単位％）

要素	低い （少ない）	平年並	高い （多い）
気温	20	50	30
降水量	30	40	30
日照時間	30	40	30

- < 1週目の予報 > 3月27日～4月2日
この期間の平均気温は、平年並の可能性が大きいでしょう。
- < 2週目の予報 > 4月3日～4月9日
この期間の平均気温は、平年並の可能性が大きいでしょう。
- < 3～4週目の予報 > 4月10日～4月23日
この期間の平均気温は、平年並の可能性が大きいでしょう。

参考資料

福岡における平年値

向こう1か月の平均気温、降水量、日照時間と1週目、2週目、3～4週目の平均気温

向こう1か月			平均気温（ ）		
平均気温（ ）	降水量(mm)	日照時間(h)	1週目	2週目	3-4週目
14.0	123.8	175.3	11.9	13.2	15.0

病虫害防除所では、病虫害の発生状況と防除について、ホームページでお知らせしています。アドレス及び番号は下記の通りです。

ホームページアドレス
電子メールアドレス

<http://www.jppn.ne.jp/fukuoka>
kfok0301@sp.jppn.ne.jp